

令和6年度 学校評価表

島根県立吉賀高等学校

めざす生徒像～地域・社会に貢献できる人材(財)の育成～

- 1 地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる
- 2 地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う
- 3 地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる
- 4 地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける

教育目標

- 1 自他を尊重し、他者と協働できる人間の育成
- 2 当事者意識を持ち、粘り強く挑戦する人間の育成
- 3 答のない課題を解決するために行動する人間の育成
- 4 広い視野に立ち、未来を想像・創造できる人間の育成

項目番号	評価番号	評価項目	重点目標	具体的施策	自己評価主資料	自己評価 (昨年度)	取組状況と課題	学校関係者評価		改善策
								評価	意見	
1	1-1	学力の向上	基礎基本の定着と学習意欲の向上	個々の生徒に対する、効果的な教科指導 ・学習支援と学習評価 ・教師の授業力の向上	教務・進路評価 生徒・保護者評価 授業アンケート	3 (3)	①指導者用PCや生徒用個人端末を利用した授業が定着してきた。 ②スタディサプリの活用はまだ十分とは言えないが、少しずつ利用状況はよくなってきている。 ③学習習慣が年々下がっている。教科学力が問われない試験が増えてきたことや、自分の学力と必要な学力を客観視できておらず、保護者によるその状況がうまく伝わっていないことがその原因か。	3	・寮においても、進学に向けて頑張っている生徒もいるが学習習慣の定着には至っていない様子だ。 ・公設塾の利用促進も期待したい。	②スタディサプリの効果的な活用方法を教務部として検討する。 ③授業と家庭学習の連動を強めるため、「しま学」事業を活用した授業改善のための研修機会を増やす。 ・生徒と教員の目指す姿を再確認し、それを適正に評価できる評価項目と、教務部としての具体的施策を考える。
	1-2			教育課程の編成充実 ・新学習指導要領の確実な実施に係る研究 ・サクラマス・プロジェクトに基づく授業改善と教育課程づくり	教務評価	3 (3)		3		
2	2-1	基本的な生活習慣の確立	自主的・自律的な生活態度の育成 社会人基礎力の育成	生徒との信頼関係構築と協働 ・挨拶、声かけの励行	生指・生徒・保護者評価	3 (3)	①挨拶や声掛けを日常的に行い、信頼関係の構築に努めた。学校生活のさまざまな場面で、生徒や教職員と協働できた。 ②安易にルールを破る生徒が見受けられ、規範意識の定着が課題となった。 ③生徒に関する情報共有を密に行い、配慮が必要な生徒への支援を適切に実施できた。 ④いじめ防止基本方針を見直し、迅速かつ組織的に対応できる体制を整えた。 ⑤養護教諭やCOを中心に個別支援を実施。また、SSWとの連携により、効果的な支援を行った。一方で、保護者への支援体制の周知と、生徒を適切な支援につなげる仕組みが課題となった。	4	・生徒は、地域の中でもよく挨拶をしてくれていると感じる。 ・魅力化コーディネーターが、学校と寮・地域とをよく繋いでくれており、個別支援は充実していると感じる。これは吉賀高校の誇るべき取り組みである。	①挨拶運動や校内の巡回指導を継続し、挨拶や声掛けを引き続き積極的に実施する。 ②多様な生徒の状況に配慮しながら、校則の必要性や意義を考えさせることで、規範意識を育成する。 ④いじめ防止基本方針を随時改定し、安全安心アンケートや面談などの日常的な生徒観察を通して、生徒が安全かつ安心して生活できる学校環境を整備する。 ⑤保護者面談で支援体制に関する案内文書を配布するなど、保護者への周知を図り、生徒の適切な支援につなげる。
	2-2			自律的な生活態度の育成 安全・安心な学校環境の整備	生指・学年評価 生徒・保護者評価	3 (2)		3		
	2-3			教育相談活動の充実 ・必要な生徒への個別支援	生指・保健評価 生徒・保護者評価	4 (4)		4		
3	3-1	特別活動・課外活動の奨励	部活動の活性化 特別活動の活性化	積極的参加の奨励 ・地域活動への参加	生指・学年評価 地域・保護者・生徒評価	3 (3)	①地域クラブを通じて、さまざまな活動を実施できた。一方で、地域活動への参加生徒が限定的であり、より多くの生徒が参加するよう促すことが課題となった。 ②部員数が少ない部活動もあり、活動に支障をきたす場面があった。 ③生徒会執行部を中心に、学校行事や生徒会活動の一部を見直した。学校行事の必要性や意義を考えさせることで、生徒の自主性や自律性を促した。	3	・地域クラブ等の地域活動に参加する生徒は、一部の生徒に限られていると感じる。 ・地域からも生徒に声をかけ、呼びかけていくことも必要かもしれない。 ・学校活動以外の場面で、医療・福祉や教育等の地域現場の活動に参画する取り組みは良い。	①地域クラブの活動をさらに充実させるとともに、部活動単位や学年単位等、各コミュニティでの参加を呼びかける。 ②中学校と連携し、将来を見据えた部活動の精選を検討する。 ③学校行事や生徒会活動について、慣例にとらわれない計画や見直しを促し、生徒の自主性や自律的な態度を育む場とする。
	3-2			学校行事の活性化 生徒会活動の活性化 ・集団としての教育力の形成	生指・学年評価 生徒・保護者評価	4 (4)		4		
4	4-1	進路指導の徹底	キャリア教育(サクラマス・プロジェクト)の充実と進路目標設定の支援	キャリア教育の充実	進路評価 地域評価	4 (4)	①アントレについては全校生徒・全教職員で積極的に取り組むことができた。ただ、現2年生の自己評価が低いのが課題である。 ②地域をフィールドとして探究活動を行う上で、地域の方に大変お世話になっているが、地域の方に不信感や不安感を拭いていない場面も多い。 ③大学進学率が上がっている中で、学習習慣が定着していないのは課題である。もっとメタ認知力を上げる必要がある。 ④今年度、求人票閲覧システム「handy」を導入した。教員の負担が減り、生徒も閲覧しやすく情報も詳しいものが提供できた。 ⑤インターンシップ、企業ガイダンス、アルバイトを通じて、生徒の職業観を育成できた。 ⑥進学に関する情報、企業に関する情報を十分には提供できなかった。	4	・「アントレ」等において、継続した活動を行うことは共生社会の実現に向けて大切な事である。 ・キャリア教育に関し、学校のサポートが手厚く生徒の進路実現につながっている。 ・これらの取り組みや成果は吉賀高校の強みである。	①現1・2年生の進路目標を立てる支援を強化し、アントレの「自分事化」を促す。アントレの時間内でも、個別面談を組み入れたい。 ②来年度スタートまでに、「吉高のアントレ」説明書を作成し、教員間、地域の方と共有できるようにする。 ③全校で、生徒が主体的に学習に向かえるような取り組みを、スタサブなどICTも活用して、個別最適な形で立ち上げられないか。進路実現のために計画を立て、実行し、振り返る時間を意図的に創り出せないか。 ④求人票閲覧システム「handy」は来年度以降も採用し、3年だけでなく全校が閲覧できるように案内する。 ⑤来年度は、2年インターンシップを全員参加とする。アルバイトももっと推奨したい。来年度かけてアルバイトやインターン単位化できないか議論したい。 ⑥進路に関するポータルを立ち上げ、情報を分かりやすく新鮮な状態で届けたい。
	4-2			適切な進路情報の提供	進路・学年評価 生徒・保護者評価	4 (4)		4		
	4-3			進路実現のための生徒個別支援	進路・学年評価 生徒・保護者評価	4 (4)		4		
	4-4			進路検討会・模試分析等による担任支援 各学年会との連携による生徒の進路情報の共有化	進路・学年評価 生徒・保護者 地域評価	4 (4)		4		
5	5-1	人権教育の推進	互いの人権を尊重する人間関係づくり・集団づくり	HRでの指導の充実 他者の尊重、教職員による人権意識高揚の働きかけ	生指・人権評価 学年評価	3 (3)	・HR活動が前年度踏襲ではなく、各学年とも生徒の実態に応じた内容をよく考えて実践することができた。 ・人権週間に合わせた短編動画の配信によって、生徒・教職員ともに身近な人権問題について考えるきっかけとすることができた。 ・HR活動の振り返りでは、自他の人権について考えることができたという感想が多く見られる一方で、相手のことをよく考えない言動でトラブルに発展するケースも見られる。	3	・地域から見て、生徒間や地域住民等とのトラブルは無いように感じる。普段の学校の取り組みが功を奏しているのではないか。	・生徒のポートフォリオに「人権に関するコーナー」を設けてもらうことを考えている。HR活動の資料や感想を個人で綴っておき、HR活動の前等に読み直すことができるようにする。当時の思いを確認したり、自己の変容に気づくことで、自他を尊重する態度の育成の一助とすることが可能ではないかと考えている。
	5-2			教職員研修の充実	生指・人権評価	3 (3)		3		
6	6	中高一貫教育の推進	サクラマス・プロジェクトと連動した中高連携の実施	めざす生徒像の実現に向けた活動の推進 推進重点事項の設定と実施	中高一貫教育アンケート	4 (3)	・今年度「身につけさせたい力」の推進重点項目である「コミュニケーション力」については、生徒・教職員対象アンケート結果から、「受容する力」「表現する力」とともに教職員の支援及び生徒の自己認識に関する肯定的回答割合が高かった。	3	・コロナ禍による中高生の交流・活動が断絶している部分があるかもしれないが、「中高一貫」として何をやっているのか見えない。	・サクラマス・プロジェクトと連動した中・高の連携がより効果的なものになるよう、具体的な活動の促進に向け関係機関に働きかける。
7	7-1	魅力と活力ある学校づくり	サクラマス・プロジェクトと連動した活動の実施	町・外部機関と連携した活動の推進	総務・進路評価 生徒・保護者 地域評価	3 (4)	①PTAの学園祭バザーの無料カレーは大変好評であった。調理班と販売班を時間差で分けるなどの負担軽減の提案もしたが、全員でやりたいということで早朝から参加され、天候による順延にも対応していただいて大変感謝している。 ②PTA総会の参加者が少なく課題である。 ③HPの更新や学校通信「めたせこいあ」発行も頻りに、タイムリーに実施できた。	3	・学校通信「めたせこいあ」により、学校の様子を知ることはできるが、それ以外では学校の様子あまり伝わってこない。 ・住民にオープンな形での活動の工夫や情報提供の工夫が必要ではないか。 ・SNS等を活用して生徒の声や様子が直接伝わるような情報発信をしてはどうか。	①PTAのバザーは可能なら継続していきたい。負担軽減策についても、班分けなどの提案は続けていきたい。
	7-2			学校の情報を地域・保護者に十分に伝える	総務評価 生徒・保護者 地域評価	4 (4)		3		
8	8-1	学校安全管理	危機管理意識の高揚と安全な生活環境の確保	防災避難訓練の計画的実施	総務評価	4 (3)	・地震の避難訓練を新しい形で実施できた。実際の災害時に近い形で行うことで、特に、災害対応についての教員の当事者意識を高めることができた。あわせて危機管理マニュアルの見直しができただことはよかった。	4	・防災訓練に関し、実践的な取組は評価できる。 ・家庭における防災について、学校から情報発信する取り組みもしてはどうか。	・危機管理マニュアルの地震部分の改訂を進めるとともに、HRを活用して災害対応について生徒と共に考えていきたい。
	8-2			安全点検の計画的実施	総務評価	4 (3)		4		

【評価】 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや不十分であった 1:全く不十分で達成できなかった